

第3回陸前高田市総合計画審議会 議事録

日時：平成30年7月4日(水) 10:00～11:50

場所：陸前高田市コミュニティホール 大会議室

議事1 陸前高田市まちづくり総合計画体系図(案)及び委員からの意見について

【企画政策課 課長補佐】

資料1及び資料2により説明

【委員】

スポーツ振興について計画に盛り込んでほしい。

【企画部長】

盛り込む方向で検討したい。

【委員】

私はまちづくり協働センターに所属しているので、特に基本政策21番の「協働のまちづくりを推進する」について、分科会でいろいろなお話をさせていただきたい。

【委員】

いま御説明いただいた範囲では特にはないが、私も分科会でお話ししたい。

【市長】

先ほど伊藤委員からお話があったように、資料1でお示した項目に含まれていないものがあれば、分科会で御提案いただきたい。

【委員】

基本政策にノーマライゼーションを連想できる項目がないので、見直しを検討していただきたい。

議事2 今後のスケジュールについて

【企画政策課 課長補佐】

資料3により説明

【委員】

地区別まちづくり懇談会を二又、生田、横田の3地区で開催することとなった背景はどのようなものか。

【市長】

被災した地区は復興計画に盛り込まれているが、被災していない地区は計画がないため、今回の総合計画に合わせて地区別の計画を策定することとしたものである。

【委員】

資料を会議の場で初めて配られて意見を求められても発言することは難しいため、今後はできれば資料を事前に送っていただくよう検討をお願いしたい。

【企画部長】

今後は、そのようなかたちで進めさせていただきたい。

【委員】

私も事前に資料を送っていただきたいと感じていたので、よろしくをお願いしたい。

【委員】

成人式でアンケートをとるのはよいことだと思う。また、過去の成人式の資料に新成人の感想や意見が記載されており、若者がどのように考えているのか分かることができると思うので、ぜひ御覧いただきたい。加えて、以前にも各地区で行われた市長との意見交換会に何度か参加したことがあるが、非常に大切な場だと思うので、私が住む地区でまた開催されるよう頑張っていきたい。

【委員】

市政懇談会を市内 11 地区で開催するとのことだが、例えば今泉地区には集会所がなく、どこで開催されるのか見通しが分からない。

【企画部長】

今泉地区については、復興状況を見ながら集会施設の整備を進めていきたいが、現状としてはそのような会合の際には市役所等へ足を運んでいただく必要がある。また、市政懇談会については、各地区のコミュニティ推進協議会と調整しながら、9月下旬から10月中旬の間に各地区1回ずつ開催したいと考えている。

【委員】

説明会は夜間に開催されることが多いが、仮設住宅の住民にとっては不慣れな土地であり、特に女性は夜間に歩くことを敬遠しがちであるため、参加者は少ない。できれば土曜日などに開催してほしい。

【企画部長】

できるだけ地域の御意向に沿ったかたちで開催していきたい。

【委員】

地区ごとに説明会を開催するために参加者が少ないところも出てくるのではないかと。各種団体の会合で関係者が集まった際に合わせて説明会を開催することについて検討していただきたい。

【企画部長】

以前には各種団体と市の担当課との意見交換を行った経緯もあることから、今後も必要に応じて同様のかたちでの説明会の開催について、相談しながら検討していきたい。

議事 3 陸前高田市まちづくり総合計画に係る指標について

【企画政策課 課長補佐】

資料 4 により説明

議事 4 市民満足度調査及び高校生アンケートの実施について

【企画政策課 課長補佐】

資料 5 及び資料 6 により説明

【委員】

高校生アンケートについて、高校生と中学生とでは考え方や価値観が大きく異なることから、中学生に陸前高田について考える機会を与える観点からも、アンケートの対象に中学生を追加していただきたい。

【教育長】

昨年実施した高校生アンケートを参考にしながら、今回は中高生アンケートとして実施する方向で検討したい。

【委員】

市長と市内の小中学生が直接懇談できる場があったと思うが、そのような場を利用することはできないか。

【市長】

小中学生からはそのような場で、具体的にこうしてほしいという意見もあるが、自分が生活している範囲での話が多い。直接話をする中で、子どもたちの思いを感じ取れる部分も多くあるので、できるだけ今回の計画づくりの中にも活かしていければと思う。

【委員】

市のコンセプトが「ノーマライゼーションという言葉のいらないまちづくり」ということもあるため、身体障がい者や知的障がい者にもアンケートをとってみてもよいと感じた。

【市長】

障がい者の皆さんとは、定期的に話をさせていただき、まちづくりなどに関する要望をいただいている。アンケートというかたちをとるかについては、内部で相談させていただくが、そういった方々の御意見も大切にしていきたい。

【委員】

外国人を対象としたアンケートも行っていたきたい。

【企画部長】

国際交流協会に相談しながら検討していきたい。

【委員】

市民満足度調査について、自分の得意分野に関係する設問以外は回答することが難しいと感じた。

【委員】

市民満足度調査の項目が多いため、事務局が取りまとめるのが大変ではないかと感じた。

【市長】

おっしゃるとおり、自分が関わっているところであれば非常に分かると思う。調査票の「設問について」というところに、「ご自分の日常生活や仕事などに関係の薄い設問がありましたら、「該当がない」または「わからない」に○をつけてください」とあるように、分かる範囲で記入いただければと思う。

【委員】

市民のまちづくりに対する意識は高くないと思う。せっかく素晴らしいものを作っても、当事者である私たちの意識が低いままだと計画の実現は難しいので、市民の意識が高まる取組を皆さんと一緒にやっていければと思う。その中で、市民満足度調査が行われることは、市民が要望や不満について明確に意思表示することができることから、素晴らしいと考えている。

また、子育て中の母親の中には、育児に追われて自分の意見を反映することができず、不満を抱えている人もいることから、子どもの同伴が可能な方の意見交換の場を設けることなどについて検討いただきたい。

【市長】

できるだけいろんな団体と直接話せるようにしたい。また、特定の団体と意見交換する場合は、どうしてもその団体の関係者しか参加できないことが多いが、今後はそれ以外の方も参加できる

よう各団体と相談していきたい。

【委員】

様々な家族構成があると思うが、中学生以上の全市民にアンケートをとってみてもよいのではないか。

【企画部長】

一定数を抽出することによって、ある程度の傾向が把握できることもあり、全市民を対象とすることは現実的に困難と考えている。

【委員】

中学生アンケートの実施について、今の中学生は総合計画期間の今後 10 年の間に社会人となり、これからの陸前高田を引っ張っていくこととなるため、私も賛成である。一点質問だが、市民満足度調査と高校生アンケートの内容は異なり、高校生アンケートはざっくりとした内容だが、こちらはあくまで参考程度ということなのか。

【企画部長】

先ほど市民満足度調査の内容が難しいという御意見もあったが、高校生の目線に合わせ、かつ負担軽減も考慮した内容としたものである。

【市長】

高校生からは、まちの魅力が足りない、あるいは自分にとってあまり居心地のよい場所ではないといった意見が多いため、そのような視点から内容を構成した。また、自由記載の欄もあるため、高校生の一定の考え方は把握できるものと考えている。

【委員】

市民満足度調査と同様に、高校生アンケートについても調査結果を公表していただきたい。

【企画部長】

調査結果については、委員の皆様にお示ししながら計画に反映していくとともに、公表することとしたい。

【委員】

震災以降、移住定住者が増えていると思われるため、そういった方々を対象にアンケートを実施していただきたい。併せて、今後移住を考えている人を対象としたアンケートの実施についても検討していただきたい。

【企画部長】

陸前高田市に住所を移した移住定住者の中には、今回の市民満足度調査の対象となる方もいる可能性がある。また、移住定住者については別途意見を聴取する機会を設けているため、そのよ

うな場で意見を吸い上げていきたい。

【委員】

移住の前後で感じ方にギャップが生じている人もいると思われるため、移住定住者については全員にアンケートをとっていただきたい。

【市長】

これまで移住定住者に聞き取り調査を行った経緯はある。例えばNPOの中には移住定住に一生懸命取り組んでいる方もいらっしゃるので、そういった方々と連携しながら、移住定住者の生の声を聞く機会を設けていきたい。

【委員】

私も市民満足度調査は中学生以上の全市民に行った方がよいと考えている。

議事 5 陸前高田市総合計画審議会 分科会について

【企画政策課 課長補佐】

資料7により説明

【委員】

計画の内容の主体者として関係する委員以外の方を、分科会の構成員に推薦できるようにしていただきたい。

【企画部長】

基本的に分科会には審議会委員のみに出席いただくこととし、委員以外の方からの意見については、各委員が所属する団体ごとに事前に意見を吸い上げていただき、分科会で委員から御発言いただきたい。

【副市長】

審議会の分科会という位置付けのため、委員以外の方が参画することは体制上よくないと思われる。また、全体の審議会だと人数が多くて発言しにくい部分があると思われるため、より少ない人数の分科会を設けることとしたものである。ただし、様々な意見を聞くことは重要なので、参考人として委員以外の方をお呼びすることは構わないものとする。

【委員】

各分野の主体者は、このような計画の策定に関わる機会が少ないことから、課題として共有できるよう、計画策定のプロセスに関わっていただきたいという趣旨でのお願いであった。

【委員】

分科会を設けることは賛成だが、一つの分科会の人数が多くてまだ話がしにくいと思われるため、できればもう少し分けてみてはどうか。

【委員】

分科会ごとに話し合われた内容を共有する予定か。

【企画部長】

分科会の欠席者や他の分科会、庁内への情報共有を行うこととしたい。

【委員】

青年会議所には 20 歳から 40 歳までの他分野にわたる構成員がいるため、できればいずれの分科会にも参加させていただきたい。

【企画部長】

お申し出いただければ、案として割り当てさせていただいた以外の分科会への参加も可能である。

議事 6 基本構想（素案）について

【企画政策課 課長補佐】

資料 8 により説明

【委員】

改元を控えているが、計画期間の表記は平成でよいのか。

【企画部長】

新しい元号が決まり次第、修正することとしたい。

（以上）